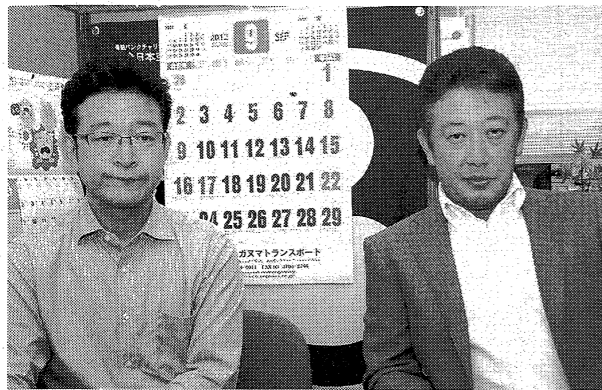


わが社の安全管理



「ヒヤリハットを一つずつ潰し安全意識を高める」
(写真右・宮本徹夫スガヌマトランスポート社長)
と「情報の共有が安全の第一歩」(菅沼寛二エス・ジーホールディングス社長)

情報共有し事故回避

スガヌマトランスポート(東京都千代田区)

東京港を起点に関東から東海まで海上コンテナの陸上輸送を行い、1日当たり80TEUを取り扱う。海コン輸送事業自体は、分社化前の旧菅沼運輸が東京港にコンテナ船が就航するのを機に開始して40年の歴史がある。今年11月にはエス・ジーホールディングスのグループ会社として設立

ただこれら背景の多くがドライバーの安全意識の欠如からと分析してきた。エス・ジーホールディングスの菅沼社長は「(事故)プロセスの把握は大事だが、その前に事故情報をしっかり全社員が共有していきたい」と話す。共有化の浸透が安全意識高揚へ最初のステップだと認識しているからだ。

軽微な接触事故を含めすべてのトラブルの報告を義務づけてきた。それをもとに休憩所にある掲示板に事故事例として1年間掲示し同様の事故を繰り返さないための全ドライバーへ戒めとしている。報告と情報共有化で「二つ二つ粘り強く(無警戒な運転を)潰していく」と宮本社長は語る。一方、顧客からも安全、環境対応を求める声は高まっている。荷受け先では5年前から待

機場所、休憩所の確保がある。労働環境の改善、環境配慮の流れが、同社の社長と菅沼社長は語る。

Gマーク、グリーン経営取得を後押しした。いまでは荷主が事業者を選ぶ際に「取得の有無」を尋ねられることも多いと言わう。同社の重大事故ゼロは20年継続中だ。「この先も」の意識を全社員で共有していきたいと宮本社長と菅沼社長は語る。